

第3学年 国語科学習指導案

児童 男5名 女12名 計17名
指導者 伊東 晃

1 研究主題 確かに読み取る力を育てる指導のあり方
読むことの系統性をおさえた指導（一人学び・学び合い）を通して

2 単元名 『大事なことをたしかめよう』
（教材名 「すがたをかえる大豆」）

3 単元について

（1）児童について

児童は、三年上「ありの行列」において、「問い」に対する「答え」の文があること、「段落」ごとの内容、おおまかな文章構成についての学習をしてきた。

読むことに関して、学級の児童は、分館図書や学校図書館を利用し、積極的に本を読んでいる。しかし、普段の授業においては、段落の要点や大事なことに気をつけながら読んだり、段落と段落との関係について考えながら読んだりすることは十分ではないといえる。

一方、書くことに関して、三年上「おもしろいもの、見つけた」において、段落を意識しながら知らせたいことを書く学習をしている。児童の書いた作文や日記を読んでも、改行して書くことを意識している児童が多いようではあるが、無造作に改行していることも多く、このことから、段落が一つのまとまりであるという意識が弱いことがいえる。

事前テストの結果では、「大豆をおいしく食べるくふう」を説明している段落を答える問題で36%、問題文を大きな三つのまとまりに分ける問題でも36%と、文章を大きなまとまりで捉える力が十分ではないといえる。また、接続詞の適語補充問題の正答率は21%であり、段落相互の関係について読み取る力が十分に備わっていないといえる。

（2）教材について

第3・4学年の「C読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。

本単元は、説明文教材を段落や中心文、重要語句などに注意しながら読み取る学習と、教材文の内容を参考に、自分で調べたいものを選び、それに関する情報を集めて文章にまとめる学習から構成されている。また本単元での学習は、四年下「アップとルーズで伝える」の情報活用単元につながっていくといえる。

本教材は、身の回りにあふれている大豆やその加工食品について書かれたもので、内容的には児童にも身近なものであるが、大豆の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは思われないものが多く、児童に驚きを与え、そこから「知りたい」、「調べたい」といった、学習意欲を喚起することができる。一方、説明的教材としては、段落構成や中心文、重要語句等も明確で、段落相互の関係を学習するのに適している。

（3）指導について

指導にあたっては、まず形式段落ごとに読み進めながら、段落の中心をつかませ、各段落の要点をまとめ、短冊状の掲示に記していく。その際、読み進めながら、接続語が何と何をつないでいるか、指示語が何を指しているかについて扱い、段落相互の関係について触れていく。その後、各段落の要点が書かれた短冊を基に、文章を大きなまとまりに分けさせ、文章には「はじめ」、「中」、「終わり」があることと、それぞれの大きなまとまりの役割について考えさせていきたい。

一人学びにおいては、各段落の重要語句に着目させ、段落の内容についてまとめる活動をさせることで、要点をつかませていきたい。学び合いでは、全体やグループでの話し合い活動において、具体物や図を用い、文章中の言葉の意味について考えさせることで、一人学びで読み取った内容について深めていきたい。

さらに、本単元では並行読書を取り入れ、「みとおす」の段階において、「ふかめる」の段階で扱う本づくりの取材に取り掛からせることで、自分の興味・関心のあるものについて、進んで情報を選択し、収集しようとする態度を育てていきたい。

4 単元目標

(1) 関心・意欲・態度

大豆をおいしく食べるためのくふうについて関心を持ち、進んで正しく読み取ろうとする。

(2) 読むこと

食品について書かれている読み物に興味をもち、進んで読む。(ア)

段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する。(イ)

内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読む。(オ)

(3) 書くこと

調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりする。(イ)

書こうとすることの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く。(エ)

(4) 言語に関する目標

文章全体における段落の役割を理解する。(オ(イ))

5 単元の評価規準(身につけさせたい力:基礎・基本)

	関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語事項
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物について書かれた読み物や図鑑などを、進んで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考え、大豆をおいしく食べるくふうを正しく読み取っている。 読み取った内容について、自分なりに感想や考えをまとめ、他の人との感じ方や考えのちがいに気づいている。 段落に書いてある内容について細かく読み取ったり、内容のまとまりに気づき、全体を「はじめ」、「中」、「終わり」に分けたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して、調べたことをまとめて書いている。 調べたい事柄について情報を収集したり、必要に応じて選択したりしている。 段落の役割を意識しながら、文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を読んでいる。 当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 文章全体における段落の役割を考えている。 指示語や接続語の役割を理解し、段落と段落との意味のつながりを考えている。

6 指導計画と評価規準(全16時間)

段階	学習活動	時間	評価規準			
			関心・意欲・態度	読む	書く	言語事項
一次	みとおす	1	大豆を使った食品について進んで話し合おうとしている。			段落番号を正しくふることができる。
		1	進んで学習計画をたてようとしている。			新出漢字を読んでいる。
二次	ふかめる	1	進んで大豆の基礎知識を読み取ろうとしている。	大豆の基礎知識を正しく読み取っている。		指示語の指している内容を考えている。
		1	進んでおいしく食べるくふう1について読み取ろうとしている。	大豆をおいしく食べるくふう1について、正しく読み取っている。		中心文に着目している。

		第 段落の、大豆を おいしく食べるくふう2を読み 取る。	1 本時	進んでおいしく食べ るくふう2を読み取る うとしている。	大豆をおいしく食べ るくふう2について、 正しく読み取ってい る。		「さらに」、「これらの ほかに」に着目し、 大きなまとまりをとら えている。
		第 段落を読み、大豆 がいろいろなすがたで食 べられる理由を読み取る。 第 段落を読み、筆者 の感想を読み取る。	1	いろいろなすがた で食べられる理由 と、筆者の感想につ いて読み取ろうとし ている。	大豆がいろいろな すがたで食べられ る理由を正しく読み 取っている。		「このように」に着目 している。
三 次	せいめい の	全文を読み、全体を「は じめ」、「中」、「終わり」に分 け、文章の構成を考える。 教科書 p.27「学習」の下 段を読み、文章の書き方 について考える。	1	進んで文章を大きく 分けようとしている。	文章が大きく三つの まとまりに分けられ ることを理解してい る。		大きなまとまりごとの 役割を理解してい る。
四 次	ついで の	調べたことを文章にまと めるまでの流れをつかむ。	1	進んで「食べ物がか せになるう」を読もう としている。	「食べ物がかせにな ろう」を読み、流れを つかんでいる。		「まず」、「次に」など の接続語に気をつ けている。
		調べたい食べ物を決め、 計画をたてる。	1	調べたい食べ物を 決め、進んで計画を たてようとしている。			既習の漢字を使っ ている。
		教科書 p.30「本で調べ る」をもとに、本での調べ方 を知る。 目的に合った本を探し、 調べたことをカードに書く。	2	調べることに必要 な本を探して読んで いる。		大事な事柄を選択し て、カードに書いて いる。	大事な事柄を短くま とめている。
		カードを整理する。	1	進んで必要な事柄 を選択したり、まと まりにわけたりしてい る。		調べたことが、書く ために必要かどうか を考えている。	内容のまとまりを意 識しながら、カード を整理している。
		それぞれのカードのまと まりごとに文章を書く。 清書する。	2	調べたことを、進ん で文章にまとめよう としている。		調べたことを事柄ご とに段落の役割を意 識しながら書いてい る。	文脈に沿って接続 語を使っている。
		文章をまとめ、本を作る。 本を読み合い、互いに評 価し合う。	2	友だちのよいところ を見つけようとして いる。			段落や事柄の順序 に着目している。

7 本時の指導

(1) 目標

進んで大豆をおいしく食べるくふうと食品について、読み取ろうとしている。(関心・意欲・態度)
大豆をおいしく食べるくふうについて、正しく読み取ることができる。(読むことイ)
「さらに」、「これらのほかに」に着目し、大きなまとまりをとらえている。(言語事項)

(2) 具体的評価規準と手だて

	A：十分満足	B：概ね満足	C：努力を要する
読むこと	食品の特徴にも触れながら、 段落の大豆をおいしく食べるく ふうについて、中心となる語(力をか りて、とり入れる時期、育て方)を おさえながら捉えている。	段落の大豆をおいしく 食べるくふうについて、中心と なる語(力をかりて、とり入れ る時期、育て方)をおさえなが ら捉えている。	指示カードを用いて、 「くふう」という言葉を丸 で囲み、その部分までを抜 き書くよう、指示する。

(3) 本時の授業仮説(研究主題との関連)

一人学びで、大豆をおいしく食べるくふうと食品についてワークシートに整理させ、学び合いにおいては、大豆と食品の特徴のちがいや、おいしく食べるくふうの具体例について話し合わせ、全体で要点をまとめることで、大豆をおいしく食べるくふうについて正しく読み取ることができるだろう。

(4) 展開

段階	学習内容・子どもの活動	時間	教師の働きかけ・評価 (主発問・留意点 個別の支援 評価)
みとおす	1 前時想起	3分	・大豆の拡大写真を提示し、前時ではどんなくふうが出てきたか、想起させる。
	2 課題把握		大豆をおいしく食べるくふう2について読み取ろう。
ふかめる	3 読みの見通しをもつために音読する。(指名読)	3分	おいしく食べるくふうがどこに書いてあるか、サイドラインを引きながら読もう。
	4 各々の視点に沿って読み深める。(一人学び)	2分	大豆をおいしく食べるくふうと、食品について、ワークシートに整理しよう。 ・難語句や、大豆を加工する言葉については、辞書を引かせ、教科書に書き込ませておく。 ・段落のおいしく食べるくふうについて読み取っているか。(ワークシート) 指示カードを用いて、「くふう」という言葉を丸で囲み、その部分までを抜き書くよう、指示する。
	5 とらえたことをもとに学び合う。(学び合い)		・一人学びで学び取った大豆を原料とした食品について確認し、板書中の表にまとめる。 それぞれの食品は、大豆とちがいますね。納豆やみそ、しょうゆは、大豆とどうちがうか、班毎に話し合ひましょう。 ・具体物を提示し、段落に出てくるそれぞれの食品の特徴について話し合わせる。 とり入れる時期、育て方をくふうしてできる食品は何ですか。 大豆は、どのようにしてすがたをかえるのでしょうか。 ・おいしく食べるくふうの具体例について触れた上で、「力をかりて」、「とり入れる時期」、「育て方」という言葉に着目させていく。 ・「さらに」、「これらのほかに」について考えさせ、段落からのつながりがあることを知らせる。
まとめる	6 つかんだことをまとめる。	10分	・段落の大豆をおいしく食べるくふうについて、中心となる語(力をかりて、とり入れる時期、育て方)をおさえ、捉えることができたか。(ワークシート)
	7 まどめの音読(一斉読)		小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうと、とり入れる時期や育て方のくふうがある。
	8 自己評価 9 次の学習内容を知る。		・今日の授業について振り返らせ、ワークシートに書き込ませる。 次の時間は、なぜこんなにも大豆がいろいろなすがたで食べられるのかを読み取っていきます。

(5) 板書計画

<p>小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうと、とり入れる時期や育て方のくふうがある。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="462 212 614 571"> <p>これらのほかに とり入れる時期や育て方のくふう</p> </td> <td data-bbox="614 212 782 571"> <p>さらに 小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="462 571 614 694"> <p>えだ豆 もやし</p> </td> <td data-bbox="614 571 782 694"> <p>納豆 みそ しょうゆ</p> </td> </tr> </table>	<p>これらのほかに とり入れる時期や育て方のくふう</p>	<p>さらに 小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう</p>	<p>えだ豆 もやし</p>	<p>納豆 みそ しょうゆ</p>
<p>これらのほかに とり入れる時期や育て方のくふう</p>	<p>さらに 小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう</p>				
<p>えだ豆 もやし</p>	<p>納豆 みそ しょうゆ</p>				
<p>大豆をおいしく食べるくふう2を読み取る。</p>	<p>大豆</p> <p>すがたをかえる大豆 国分 牧衛</p> <p>いたり、にたりするくふう こなにひくくふう 大切なえいよつだけを取り出して、ちがう食品にするくふう</p>				